石川県立美術館だより

BIJUTSUKAN DAYORI

第333号　平成23年7月1日発行

ホノルル美術館所蔵

北斎展 ―葛飾北斎生誕250周年記念―

冨嶽三十六景　山下白雨
©Honolulu Academy of Arts

作品保護のため毎週木曜日は北斎展休室となります。

特別陳列

西山英雄と一門展

―昭和の巨星と金沢美大出身の俊英たち―

火焔山　西山英雄　―西山英雄と一門―

- 夏休み親子で楽しむ美術館
  さがしてみよう
- 書跡と文房具
- 古九谷・再興九谷名品展

おぼろ夜　中町　進
―さがしてみよう―

- 7月前半の展覧会
- 行事予定
- 企画展Topics
- 所蔵品紹介

ホノルル美術館所蔵

北斎展 ―葛飾北斎生誕250周年記念―

主催／北陸中日新聞、石川県立美術館、石川テレビ
協力／ホノルル美術館
後援／アメリカ大使館、石川県、金沢市、金沢市教育委員会、NHK金沢放送局、エフエム石川

7月16日(土)～8月21日(日)　北斎展は木曜日お休みします

1F企画展示室

ホノルル美術館は、日本・中国・イスラム美術など東洋美術の充実したコレクションで世界的にも知られています。約一万点もの浮世絵版画を収蔵しており、歌川広重などそのクオリティの高さには定評があるところです。葛飾北斎については、これまであまり知られていませんでしたが、調査の結果、広重同様に優れたものであることがわかってきました。

このたび、葛飾北斎生誕二五〇周年の記念事業の一環として、初めてホノルル美術館外で「北斎展」を開催することとなり、当館がその最初の会場となりました。本展は大きく二部で構成されます。最初は、北斎デビュー時の春朗と名乗っていた時代の作品から、最晩年の八十九歳時の「地方測量之図」までを、年代順に公開し、その画業を概観するセクション。そして二つ目が、北斎を代表する「冨嶽三十六景」、「諸国名橋奇覧」、「諸国瀧廻り」、「琉球八景」、「詩哥写真鏡」、「百人一首姥か絵説」のシリーズを紹介するものです。

ほかにも「渡舟図」など、日本初公開となる肉筆画もあわせ、約一六〇点の北斎作品を鑑賞いただきます。

作品保護の観点から観覧時間を**午後五時三〇分**までとし、**木曜日は休室**させていただきます。ご了承下さい。

■観覧料

一般	一、二〇〇円（一、〇〇〇円）
大学・高校生	七〇〇円（五〇〇円）
中学・小学生	五〇〇円（三〇〇円）

（　）内は前売および二十名以上の団体料金
※当館友の会会員は会員証提示で団体料金に割引

冨嶽三十六景　凱風快晴

渡舟図

琉球八景　長虹秋霽

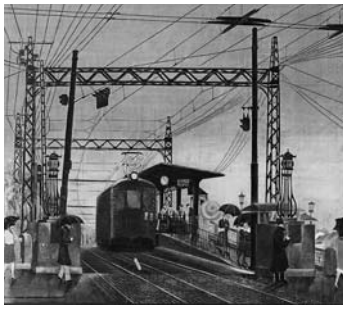
諸国瀧廻り　相州大山ろうべんの瀧

地方測量之図

百人一首姥か絵説　藤原道信朝臣

この展覧会に出品される浮世絵版画の修復は、The Robert F. Lange Foundationの援助により行われました。

© Honolulu Academy of Arts



春雨　昭和9年　西山英雄　京都市美術館蔵

残照　昭和57年　西山英雄

自然を大胆且つ華麗な色彩で描き、日本画表現の可能性を拓いた西山英雄は、本年生誕百年を迎えます。卓抜した画力と壮大なスケールで、京都画壇のみならず現代日本画を牽引した功績は稀有といえるでしょう。

その指導力がさらに石川県の日本画界にも発揮されたのは、金沢美術工芸大学を通してでした。金沢美術工芸大学が、日展日本画に果たしてきた役割は大変大きいといえます。設立当初から日展系作家を教授陣に迎え、日展を舞台に活躍する日本画家を多く輩出しています。とりわけ西山英雄が日本画科の教授に就任した昭和四十七年から退官の五十二年の前後は、卒業生の活躍が目覚ましく、日本画科が大きく発展した時期といえるでしょう。氏の在任期間は五年と、決して長期ではなかったにもかかわらず、石川県日本画に残した足跡は特筆に値するものだったのです。

本展では西山作品十点を通して氏の画業を振り返るとともに、金沢美術工芸大学出身の十名の門下生の作品約二十点の展示を通し、指導者としての一面と門下が受け継いだ芸術の一端をご覧いただきます。

出品作家と主な作品

西山　英雄　「阿蘇五岳」　昭和六十三年

（以下五十音順）

大豊　世紀　「川沿いの町」　平成二十一年
坂根　克介　「觀音」　平成十六年
百々　俊雅　「転た寝」　平成二十一年
中江　悦子　「エピローグ」　平成十三年
中村　賢次　「夏の夜に舞う」　平成二十一年
西　敏彦　「祈りの門」　平成二十年
仁志出龍司　「生生」　平成九年
平木　孝志　「游」　平成十八年
山田　毅　「うねる」　平成十九年
山本　隆　「観」　平成二十二年

学芸員の眼

西山英雄といえば、その作風は雄壮、豪快、男性的等と評されてきました。確かに阿蘇や桜島を描いた作品群からは、圧倒的なスケールと力強さが感じられます。しかし氏の初期から晩年までを通観すると、ひと言で作風を表現することは難しいようです。

昭和初期の作品は、色彩、テーマともに当時の洋画的なモダニズムや抒情が漂っています。三十年代には、海外への取材を機に、フォービズムのように色彩が解放され、対象のとらえ方は自由さを増していきます。五十年代、円熟期に入ると、豪快さとは背中合わせにその筆致は精緻にして秀麗です。伝統的な日本画の世界に生きてきた、画家の確かな技量を感じさせます。さらに晩年は、技術を超越し、対象と調和した筆致を見せるのです。

第4展示室

特別陳列

西山英雄と一門展

―昭和の巨星と金沢美大出身の俊英たち―

7月16日(土)～9月6日(火)会期中無休

夏休み親子で楽しむ美術館

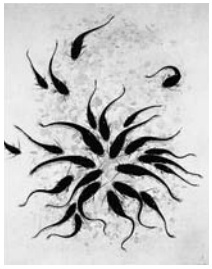
さがしてみよう

7月16日(土)～9月6日(火)会期中無休

毎年恒例「夏休み親子で楽しむ美術館」の今年のテーマは、『さがしてみよう』。この展示は、展示室に並んだ作品を〝みる〟だけでなく、鑑賞いただく方々に〝さがす〟という活動を通して作品鑑賞に親しんでいただこうという企画です。子どもたちは、クイズや〝○○をさがそう〟といった絵本が大好き。「美術館で子どもと一緒に作品鑑賞をしてみたいけれど、美術の知識がないからどんなふうにみたらよいのかしら…」といった美術館での作品鑑賞に馴染みのないお子さん、そしてお父さん、お母さんにも楽しく作品を見るきっかけにしていただける展示です。

展示室には、〝さがす〟テーマがいくつかあります。春・夏・秋・冬の四つの季節の中から、作品の描かれている季節を〝さがす〟。また、その季節だと決め手になるものを作品から〝さがす〟。また、衣服や器、家具など生活の中の道具である工芸作品。そこに刻まれた植物・動物などの文様や模様に注目し、健康や悪いことが起きないよう静かな世の中を願って刻まれた文様や模様を〝さがす〟などです。

今年度は、子どもたち自身がこの〝さがす〟活動で作品を楽しくみていくことができるよう、各テーマごとのワークシートを用意しております。近年、この「夏休み親子で楽しむ美術館」の展示には、サマースクールの一環としてご来館くださっている小学校もあります。ワークシートは、このような学校での団体鑑賞の際にもご活用いただけることでしょう。さあ、今年の夏休みも、親子で、ご家族で、また、学校のお友だちとで、作品をよーく見て「さがしてみよう!!」



鯰談義図　大沼憲昭

友禅産着　石橋三代　中川華邨

第6展示室

学芸員の眼

作品を鑑賞する時、大切なことは作品をよーくみること。でも、よーくみるってどういうこと?今回のテーマ「さがしてみよう」は、実は、観察というくらいよーくみていただくためのしかけなのです。例えば、「季節はいつ?どこからそう思った?」と投げかけられたら、季節をさがそうと意識を持って作品をよーくみることになります。意識を持って作品をみる体験。これが今回のテーマなのです。子どもたちが作品に表現された様々なものを手がかりとして発見し、自分がどのように感じたかを大切に鑑賞していくこと。このような活動は、子どもたちが大人になっても、自分の目や想いで作品を自由に楽しむことができる人になることにつながっていくと考えています。

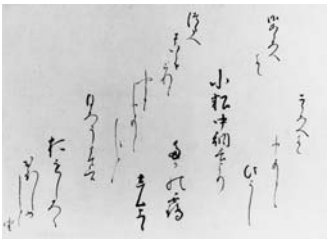
前田育徳会尊経閣文庫分館

書跡と文房具

7月16日(土)～9月6日(火)会期中無休

寛永文化の中心的存在であった後水尾天皇とそのゆかりの文化人の書跡にあわせて、加賀藩三代藩主前田利常をはじめとする歴代藩主が愛用した文房具を展示します。

後水尾天皇と前田利常の並々ならぬつながりは、徳川幕府と天皇家、前田家の関係に起因します。幕府は中央集権的国家体制を強化するため、天皇家との公武合体を望み、後水尾天皇へ二代将軍秀忠の女和子（まさこ）を入内させます。さらに「天皇のつとめは芸能である」と規定することで、学問を第一に、次に和歌の道と定めたのです。天皇はそれを逆手にとり、天皇が文化における最高権威者であり、文化そのものの体現者であると捉えたのです。一方、大藩の外様大名である前田家に対する警戒から、三代利常に、同じく二代将軍の女珠子を嫁がせます。こうした将軍家の政治的策略は、後水尾天皇と利常のつながりをより強固なものにしました。利常は後水尾天皇をはじめ、天皇を取り巻く小堀遠州や松花堂昭乗、近衛信尹など多くの文化人との交流の中で、都の文化を吸収していったのです。そうして京都や江戸に肩を並べるような文化政策に力を注ぎ、傑出した文化大名としての自己の存在を、ひいては前田家の存在を確固としたものとして、今日いうところの加賀文化を確立したのです。このような前田家の文化的な歴史を、前田育徳会コレクションから感じていただければ幸いです。個々の作品については、次回紹介いたします。



後水尾天皇　消息文

第2展示室

古九谷・再興九谷名品展

7月16日(土)～9月6日(火)会期中無休

加賀藩三代藩主前田利常は、政治的に屈従を強いられた無念を晴らすかのように、文化政策において幕府に対抗心を燃やした大名でした。そして名品の収集や名工の招聘とともに利常が意欲的に取り組んだのが、江戸ではできない色絵磁器の生産でした。中国で確立された色絵磁器の技法は徐々に日本にも伝えられ、十七世紀にはいると本格的な生産体制が整備されていきます。前田利常は九州の有田地区の動向にいち早く注目し、人的交流によって技術の移転をはかり、やがて十七世紀半ば、加賀南部の九谷の地に色絵磁器の生産拠点を確立します。そしてそれから約半世紀間に、今日古九谷と呼ばれている独創的な色絵磁器がそこで生産されます。

古九谷色絵の特質は、豪放華麗な意匠感覚にあります。古九谷の色絵、青手の両様式には、中国の景徳鎮五彩や華南三彩の影響が認められますが、意匠感覚は斬新であり、日本や中国のみならず、西洋の文物も熱心に参照しています。こうした姿勢が前田利常の文化人としての「好み」であり、また幕府に対する反骨精神の表明と考えることができます。このように、古九谷の意匠は加賀の文化風土と密接に結びついて誕生し、若杉や吉田屋など再興九谷諸窯にも継承され、さらに明治時代以降今日に至るまで当地の陶芸家の精神的支柱となっています。

本展では、古九谷意匠の展開と、再興九谷諸窯による継承・翻案の軌跡を概観したいと思います。

石川県指定文化財　色絵鳳凰図平鉢
古九谷　江戸17世紀

第3展示室

生誕100年
森本仁平展

6月16日(木)～7月12日(火)会期中無休

展覧会をご覧になると、昭和四十九年の自画像「空の肖像」を境に、テーマが大きく変わることに驚かれると思います。

四十四年の「地層」と「野の墓標」は、土中の遺物や廃材、鉄兜など、過ぎ去っていくもの、失われていくものを顧みない『時代』に対する批判精神がうかがえます。しかし、森本氏は高度経済成長期を経た日本の現状にそぐわぬものを感じ、普遍性を求めて「風景」をテーマに定めました。あたたかく静謐な世界を存分にご堪能下さい。

空の肖像　森本仁平

第2展示室

特別陳列
仏教絵画

6月16日(木)～7月12日(火)会期中無休

わが国では、仏教の伝来・伝播にともなって、仏教に関わる絵画や彫刻など多くの美術品が遺されてきました。なかでも仏教絵画は多様で変化に富み、絵画史的にも重要とされています。

仏教伝来当初には釈迦像が、次いで薬師・弥勒など大乗仏教に由来する像が制作され、密教、浄土教、垂迹思想など仏教の歴史にあわせて多様な仏画が生まれてきました。また北陸では、浄土真宗が盛んな当地ならではの真宗の絵画も数多く伝えられています。

本展では、本県に伝来する十八点の仏教絵画をご紹介します。

金沢市文　仏涅槃図
高厳寺蔵

一般に古今の日本の美術作品を見ていくと、鳥をモチーフとする表現は、単独で取り上げられることもありますが、自然の中に生きる姿、すなわち花や草木と組み合わせた『花鳥』として表されることも多く見受けられます。そこには、花鳥風月といわれるような伝統的な美的感性が息づいているといえましょう。今回の近現代工芸部門の特集展示では、鳥のみを意匠化した作品から、自然の景物と組み合わせた図様が施されたものまで、多様な表現をご覧いただき、自然の生命の律動を感じ取っていただければ幸いです。

金襴手愛鳥譜飾盤　北出塔次郎
昭和33年

約二か月にわたっての展示も、最終日が近くなりました。甲冑や陣羽織は、武将が己の存在意義を象徴的に表現するための、最も端的な手段と言えます。それは、今日の鑑賞者の立場からすると、個々の武将のイメージが視覚として直接伝わってくるものと言えましょう。武将がその表現に込めた文武両道の心を、われわれは心の眼を通して鑑賞することが、求められているのではないでしょうか。

六十二間甲冑　三代前田利常所用

第5展示室

特集展示
工芸にみる鳥の意匠

6月16日(木)～7月12日(火)会期中無休

前田育徳会尊経閣文庫分館

百万石大名の装い
―甲冑・陣羽織―

5月11日(水)～7月12日(火)会期中無休

企画展Topics

地域文化が育んだ美術館・博物館の名品展

会期：9月11日（日）～10月23日（日）

赤絵初夏壷　北出不二雄

赤絵花鳥文鉢　宮本屋窯

当館は、石川県の伝統的な芸術的個性を生かした地方色豊かな美術館とする基本理念に沿い、石川県にゆかりのある文化財・美術品や作家の作品を収蔵・展示しています。

日本各地には当館のようにそれぞれの地域の歴史・文化の個性を生かして設立された特色のある美術館・博物館が多数あります。本展は、現在伝統的工芸品として全国的に高く評価され、その地域で育まれた文化財や美術工芸作品を収集の対象とし活動されている公立の美術館・博物館を収蔵作品により紹介しようとするものです。

「愛知県陶磁資料館の瀬戸焼・常滑焼」「岐阜市歴史博物館の美濃焼」「高岡市美術館の高岡銅器」「福井県陶芸館の越前焼」「滋賀県立陶芸の森陶芸館の信楽焼」「京都府京都文化博物館の西陣織、京友禅、京焼・清水焼・楽焼」「兵庫陶芸美術館の丹波焼」「和歌山県立博物館の紀州漆器」「岡山県立美術館の備前焼」「山口県立萩美術館・浦上記念館の萩焼」「高松市美術館の香川漆器」「佐賀県立九州陶磁文化館の伊万里・有田焼、唐津焼」「沖縄県立博物館・美術館の琉球紅型をはじめとする染織品、壺屋焼、琉球漆器」「当館の九谷焼、大樋焼、輪島塗、金沢漆器、加賀友禅、加賀象嵌」を紹介します。例えば『瀬戸焼』では、猿投古窯から加藤唐九郎までというように、各館の収蔵品で可能ならば、古美術と現代作品を展示し、各地の工芸の歴史や文化の現状を紹介するとともに、地域社会における博物館の役割について再検証しようとするものです。なお、本展は会期中に金沢で開催される第五十九回全国博物館大会の協賛展です。

次回の展覧会

展示室	展覧会名
前田育徳会尊経閣文庫分館	加賀藩の美術工芸
第2～第6展示室	秋の優品選
企画展示室	地域文化が育んだ美術館・博物館の名品展

会期　九月十日（土）～十月二十三日（日）

7月の行事予定

■土曜講座　美術館講義室　午後一時三〇分　聴講無料

二日	仏教の絵画	谷口　出　普及課長
十六日	東京美術学校と石川（一）　西田孝司　担当課長	
二十三日	工芸の中の人形　寺川和子　学芸主査	

■ビデオ鑑賞会　美術館ホール　午後一時三〇分　入場無料

三日	悠久の中国　やきもの紀行　1 青磁のふるさと　龍泉窯（31分）	
	悠久の中国　やきもの紀行　2 千年の磁器の都　景徳鎮窯（31分）	
十七日	日本美術史　浮世絵の系譜と西洋への影響（25分）	
	作家シリーズ　水のムーヴマン　ターナー／葛飾北斎（30分）	

第41回　日彫北陸展

第7～9展示室(午後5時閉室)

平成23年7月8日(金)～7月12日(火)会期中無休

日本彫刻会は、彫刻の美しさ、豊かな生命感、存在感、そして空間との対話を求めて日彫展を開催し、具象彫刻を中心に彫刻の本質をつかむべく、会員相互の研鑽を推し進め、造形芸術の向上に務めている国内では最大規模の彫刻公募団体です。

本展は六月に六本木　国立新美術館で開催した第四十一回日彫展より芸術院会員をはじめ各受賞作品、会員から選抜された優秀作を基本作品とし、石川、富山の地元出品作、合計約九十点を展示します。是非ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

なお、身体障がい者手帳をお持ちの方と、付き添い二名入場無料とし、触れてみられる作品も展示します（手形マーク添付）。また、会期中の七月九日（土）には、子ども向けワークショップとして、やきもの粘土（テラコッタ用）を使った作品づくりを行います。

◇入場料／一般：五〇〇円　高大生：三〇〇円　小中生無料

◇連絡先／野々市町粟田三―一二二　村井良樹

電話　〇七六―二四六―四四七二

青手罌粟図平鉢　古九谷 口径33.8　底径14.8　高さ7.5(cm)　江戸時代17世紀

所蔵品紹介217

あおてけしずひらばち　こくたに

時間的推移を念頭において、蕾が開花し、やがて実となる罌粟の四態を緑と紫を基調として紺青を交えて描いています。魚子模様を地文としていることから、下部に描かれた寿石とあわせて、永続的な豊穣多産をあらわす吉祥図と解釈することができます。しかし罌粟の描写には、ありきたりの図案類を写したのではなく、対象を間近に観察したことによってのみ表現できるような存在感があります。

色の対比は鮮やかで、葉脈や花脈は熟達した筆致によって描かれています。また花の表現には、焼成時に生ずる釉薬の流れを勘案したぼかしの効果を用いるなど、色絵の技法を熟知した手法が駆使されており、古九谷プロジェクトに参画した画工の層の厚さを示しています。裏面は渦を強調した雲文で、高台内には二重角で「福」と判読できる文字を記し、全体を緑釉で塗り埋めています。

このような特徴から、制作されたのは古九谷の生産基盤が整い、当初からの大胆な意匠構成に加えて、表現上の創意工夫を展開してゆこうという意欲にあふれた、古九谷初期の中盤から終盤の時期と考えることができます。本作に示されたデザイン感覚は、再興九谷の若杉窯や松山窯で制作された作品に形を変えて継承されています。古九谷の意匠が加賀の文化風土と密接不可分の関係にあったことを再認識させる作例の一つといえます。

七月十六日から九月六日まで、第二展示室の特集「古九谷・再興九谷名品展」で展示されます。

東日本大震災支援活動のお願い

三月十一日に発生した東日本大震災で、東北・関東地方の数多くの美術館・博物館が被災しました。全国美術館会議では、その救援と支援を目的とした募金活動をしています。当館でもその活動に協力することとし、一般の方々からもその支援をお願いしたいと考え、情報図書コーナーに義援金を送る方法などを記した案内を置きました。趣旨に賛同される方は、ぜひともご協力をお願いします。

ご利用案内

コレクション展観覧料
一　般　350円（280円）
大学生　280円（220円）
高校生以下　無料
※（　）内は団体料金

7月の開館時間
午前9：30～午後6：00

カフェ営業時間
午前10：00～午後7：00

7月の休館日は
13日（水）～15日（金）

やさしさ品質
お土産・和洋菓子・生鮮・惣菜・レストラン
地階 エムザ食品館
"もっとお客様へ、もっと地域に"
MEITETSU MIZA
めいてつ・エムザ
金沢・むさしが辻 TEL代表(076)260-1111
http://www.meitetsumza.com/
広告

石川県立美術館だより
第333号〈毎月発行〉
2011年7月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています